

朝霞市転入・転出意識調査 結果報告書

令和6年（2024年）6月
朝霞市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の方法	1
3.	調査項目	1
4.	回収結果	1
5.	報告書の見方	2
II	回答結果（転入者）	3
1.	世帯構成とお住まいについて	3
2.	朝霞市への転入の「きっかけ」及び「理由」について	9
III	回答結果（転出者）	12
1.	世帯構成とお住まいについて	12
2.	朝霞市から転出する「きっかけ」及び「理由」について	19

I 調査の概要

1. 調査の目的

この市民意識調査は令和8年度(2026年度)から10年間のまちづくりの指針となる「第6次朝霞市総合計画」を策定するに当たって、本市に長く住み続けていただくための施策検討に向けた基礎資料として、転入・転出者の属性と転入・転出の理由等を把握することを目的に実施したものである。

2. 調査の方法

- | | |
|--------|---|
| ① 調査対象 | (1)転入者(調査期間中に朝霞市に転入する世帯)
(2)転出者(調査期間中に朝霞市から転出する世帯) |
| ② 対象者数 | (1)及び(2)のそれぞれ100世帯以上を想定 |
| ③ 調査方法 | 総合窓口課の窓口で転入(転出)手続を行う者に調査票を配布、
郵送による回収、インターネットによる回答を併用
【追加調査】総合窓口課の窓口で転入(転出)手続を行う者に対し、
直接聞き取り |
| ④ 調査期間 | 令和5年12月15日配布開始、令和6年1月15日締切
【追加調査】令和6年4月10日～4月26日 |

3. 調査項目

- ① 世帯構成とお住まいについて
- ② 転入(転出)の「きっかけ」及び「理由」について

4. 回収結果

【転入者】

- | | |
|--------------|----------------------------|
| ① 調査票配布数 | 142 票 |
| ② 有効回収数 | 17 票(紙回答:9票、Web回答:8票) |
| ③ 有効回収率 | 12.0%(紙回答:6.3%、Web回答:5.6%) |
| ④ 追加調査回収数 | 109 票 |
| ⑤ 回収数合計(②+④) | 126 票 |

【転出者】

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| ① 調査票配布数 | 66 票 |
| ② 有効回収数 | 9 票(紙回答:8票、Web回答:1票) |
| ③ 有効回収率 | 13.6%(紙回答:12.1%、Web回答:1.5%) |
| ④ 追加調査回収数 | 68 票 |
| ⑤ 回収数合計(②+④) | 77 票 |

5. 報告書の見方

①用語について

- ・ 図表中の「n」(=number)は、設問に対する回答者数を示す。
- ・ 選択肢の文字数が多いものは、本文や図表中で省略した表現を用いている。

②集計について

- ・ 比率は、全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、比率の合計が100%にならない場合がある。
なお、集計上の無回答には、無効な回答も含んでいる。
- ・ 複数回答形式の設問については、設問に対する回答者数を母数として比率(%)を算出している。このため、合計が100%を超えることがある。

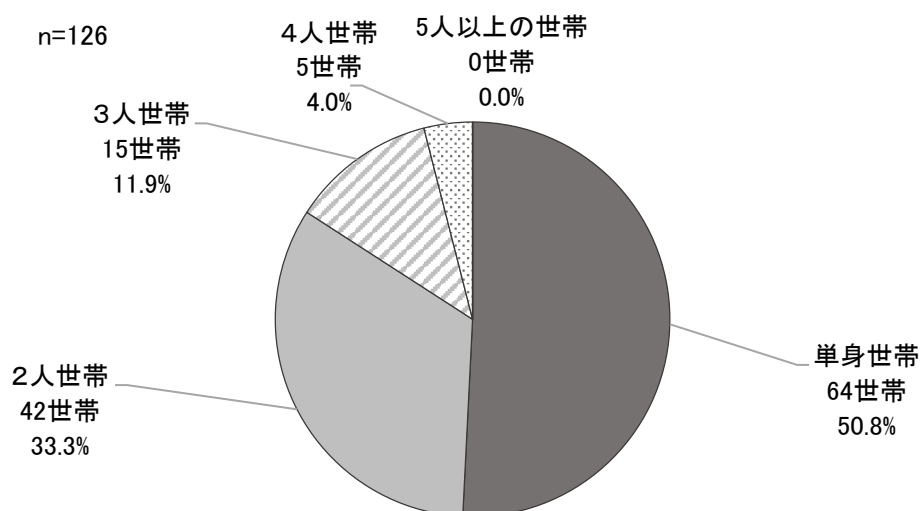
Ⅱ 回答結果（転入者）

1. 世帯構成とお住まいについて

（1）今回転入される方の世帯構成について（○印は1つ）

【全体の回答傾向】

転入者の世帯構成については、「単身世帯」が 50.8%で最も多く、次いで「2人世帯」が 33.3%、「3人世帯」が 11.9%となっている。

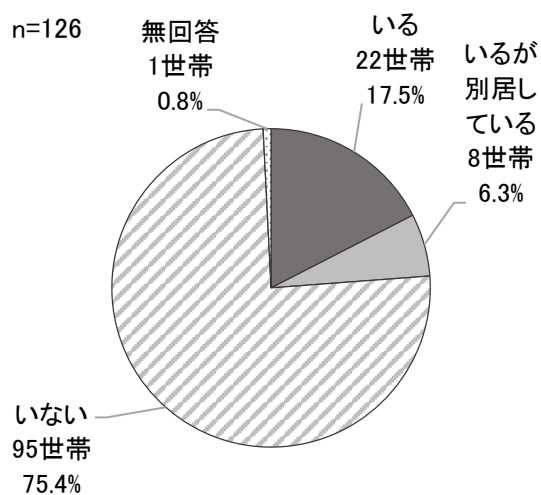


（2）お子様について

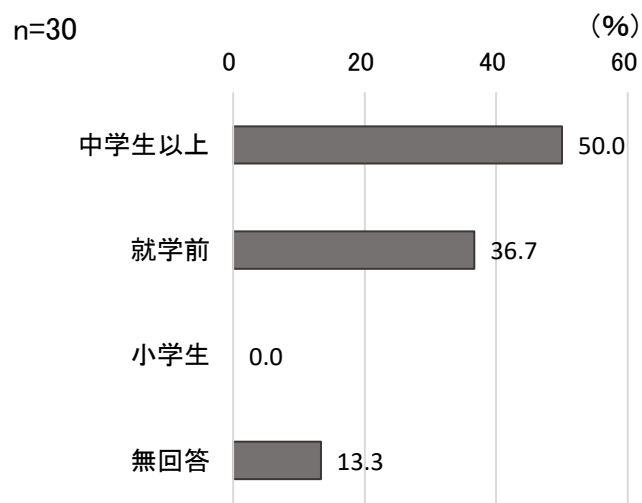
【全体の回答傾向】

子どもがいる世帯は 23.8%である。また、年齢層は「中学生以上」が 50.0%、「就学前」が 36.7%となっている。

【世帯における子どもの有無（○印は1つ）】



【子どもの年齢層（当てはまるものすべて）】

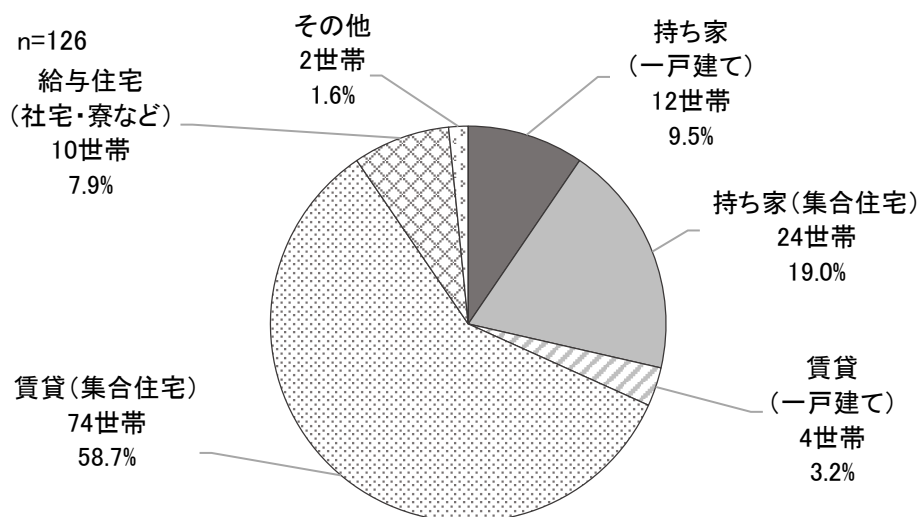


(3) お住まいになる住宅について

① 住宅の形態（○印は1つ）

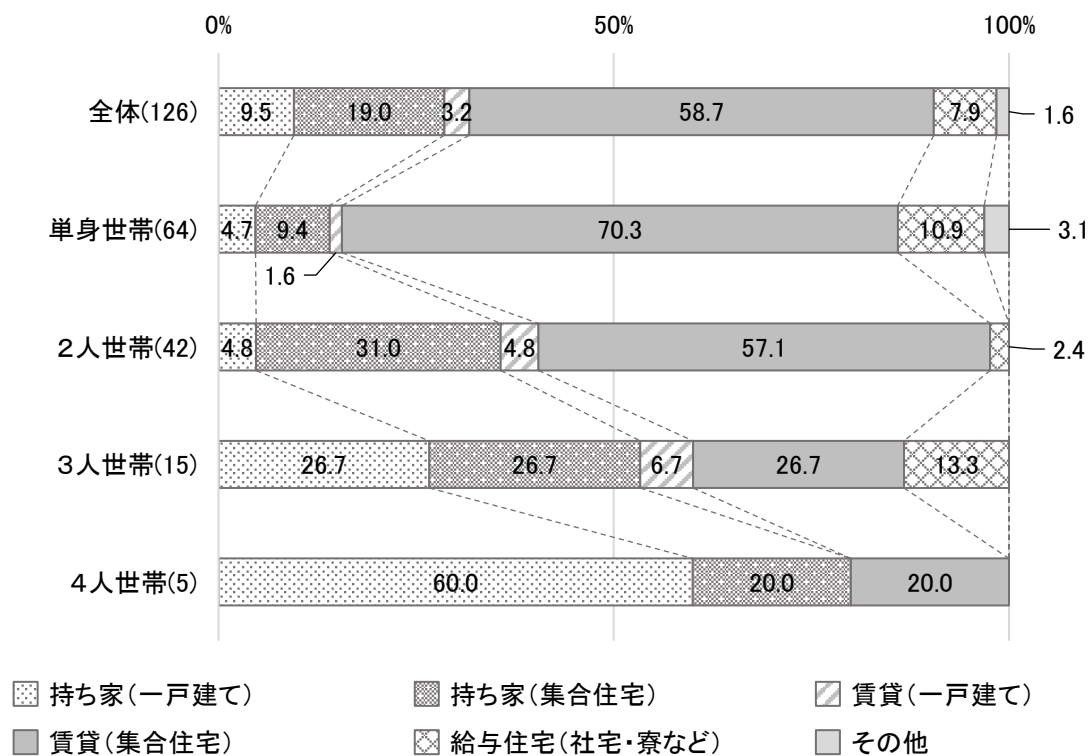
【全体の回答傾向】

住宅の形態は「賃貸（集合住宅）」が58.7%を占めている。その他の形態では、「持ち家（集合住宅）」が19.0%、「持ち家（一戸建て）」が9.5%となっている。



【世帯別回答傾向】

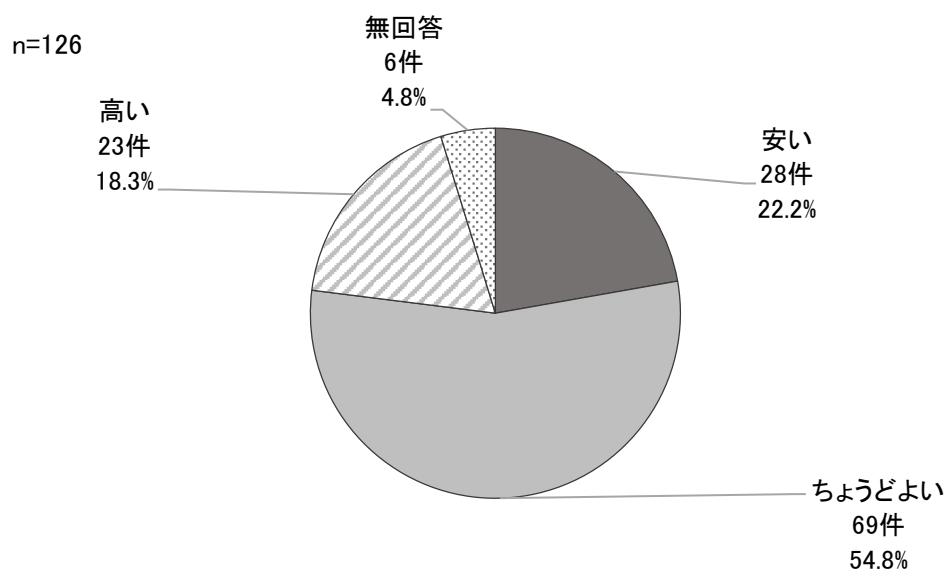
単身世帯については、「賃貸（集合住宅）」が7割以上となっており、2人以上の世帯になると、「持ち家」の割合が増加している。



② 価格・家賃の印象（○印は1つ）

【全体の回答傾向】

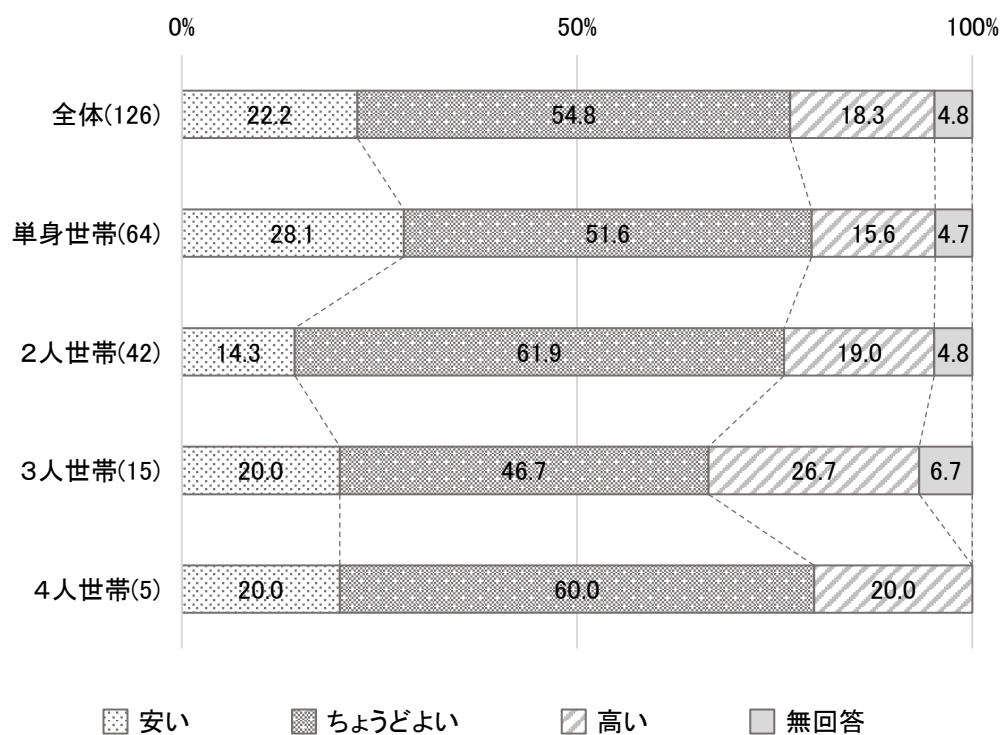
住宅の価格又は家賃の印象については、「ちょうどよい」が 54.8%と最も多く、次いで、「安い」が 22.2%、「高い」が 18.3%となっている。



【世帯別回答傾向】

単身世帯については、他の世帯と比べて「安い」という評価が高い割合を占めている。

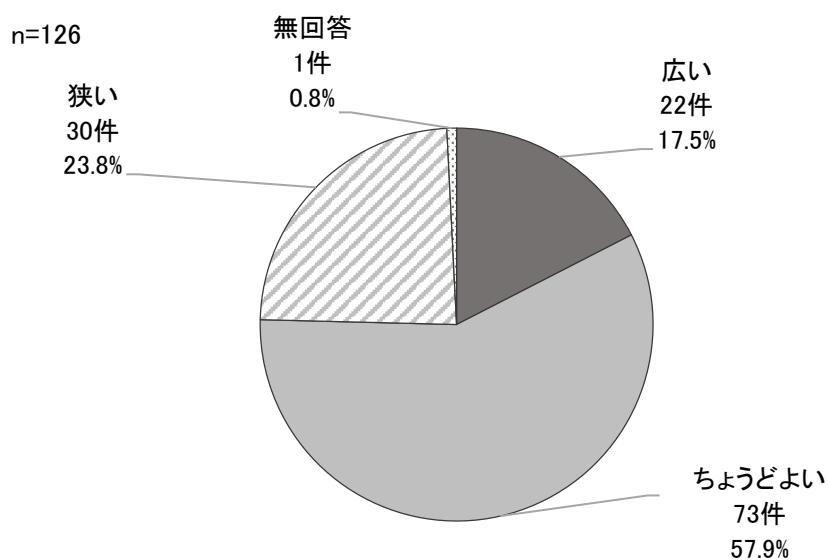
2人及び3人の世帯については、「安い」より「高い」という評価の割合が高くなっている。



③ 広さの印象（○印は1つ）

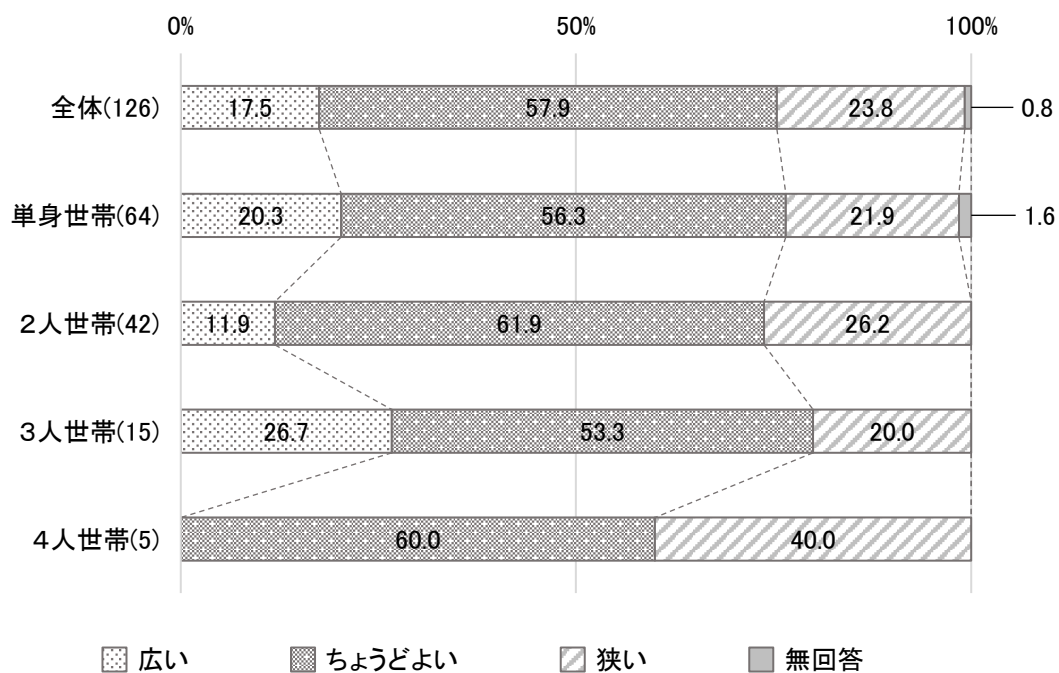
【全体の回答傾向】

住宅の広さの印象については、「ちょうどよい」が57.9%で最も多く、次いで「狭い」が23.8%、「広い」が17.5%となっている。



【世帯別回答傾向】

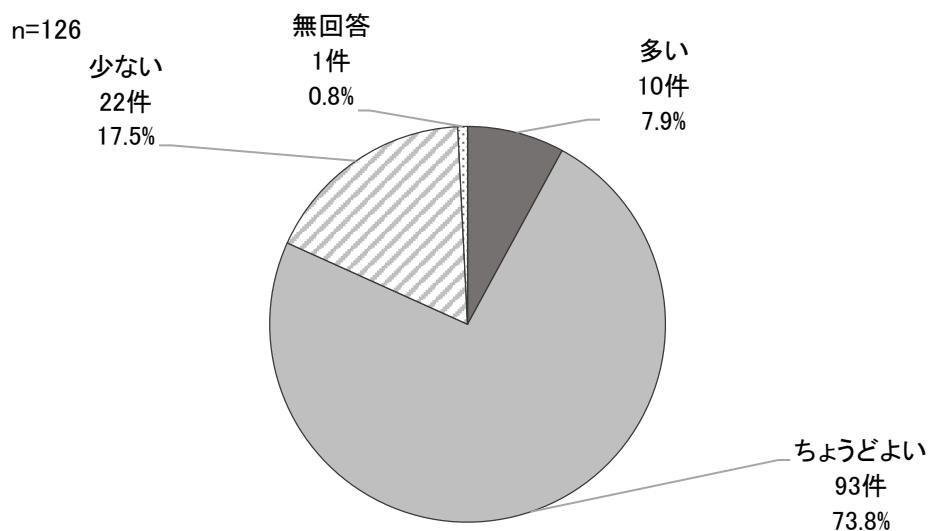
全体的に「ちょうどよい」という評価が高い割合を占めているが、3人世帯については、他の世帯と比べて「広い」という評価の割合が高くなっている。



④ 部屋数の印象（○印は1つ）

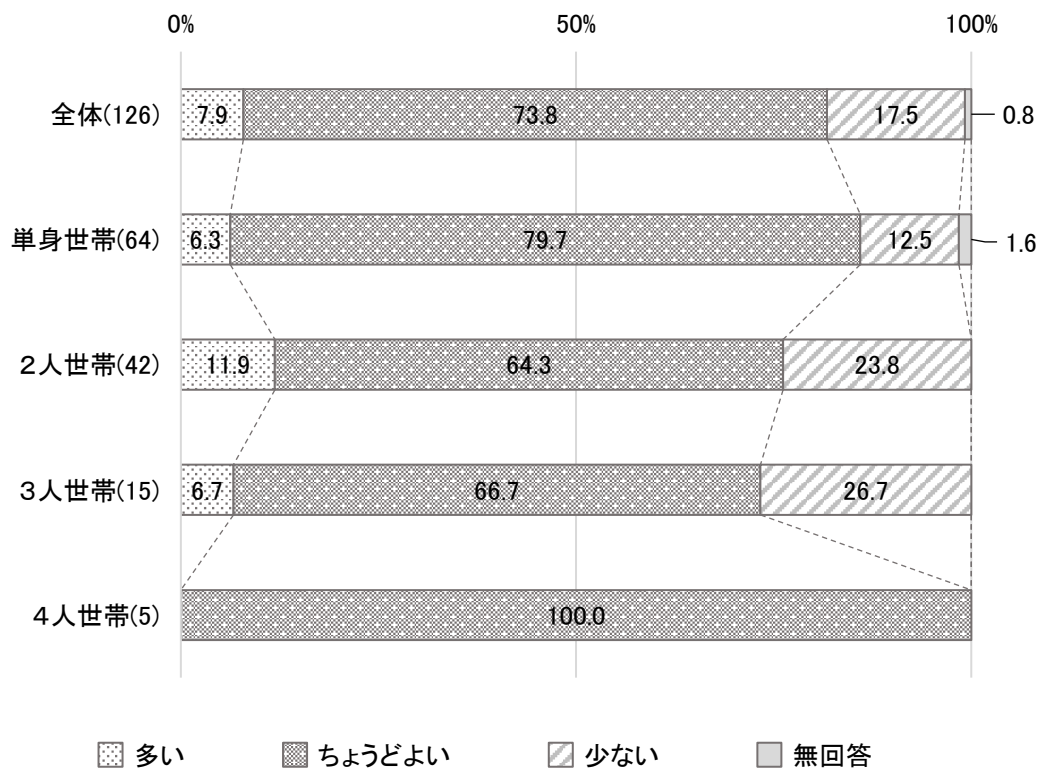
【全体の回答傾向】

住宅の部屋数については、「ちょうどよい」が 73.8%で高い割合を占めている。次いで「少ない」が 17.5%である。



【世帯別回答傾向】

世帯の違いに関わりなく、「ちょうどよい」という評価が高い割合を占めている。

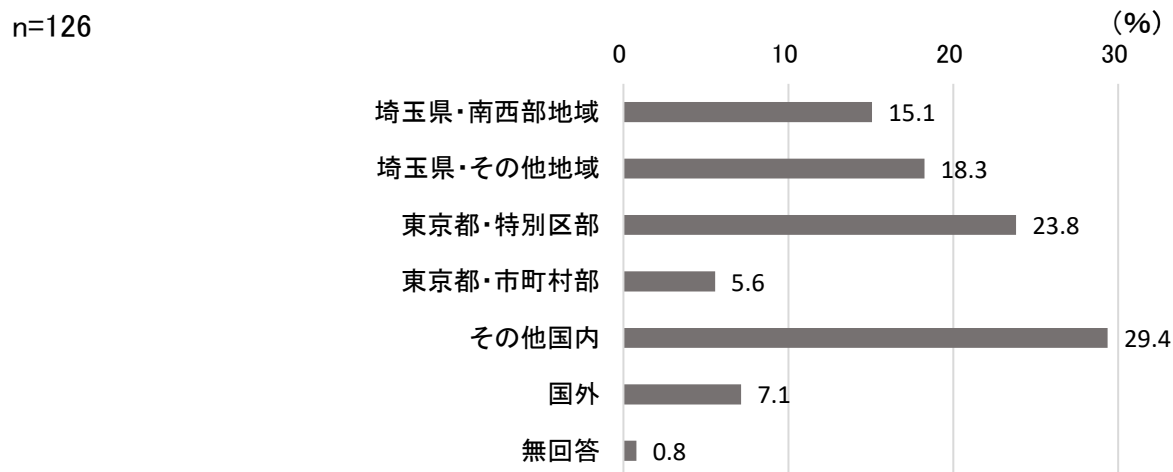


(4) 朝霞市へ転入する直前までお住まいだった自治体について（自治体名を記入）

【全体の回答傾向】

転入前の居住地については、埼玉県内が33.4%、東京都内が29.4%となっている。

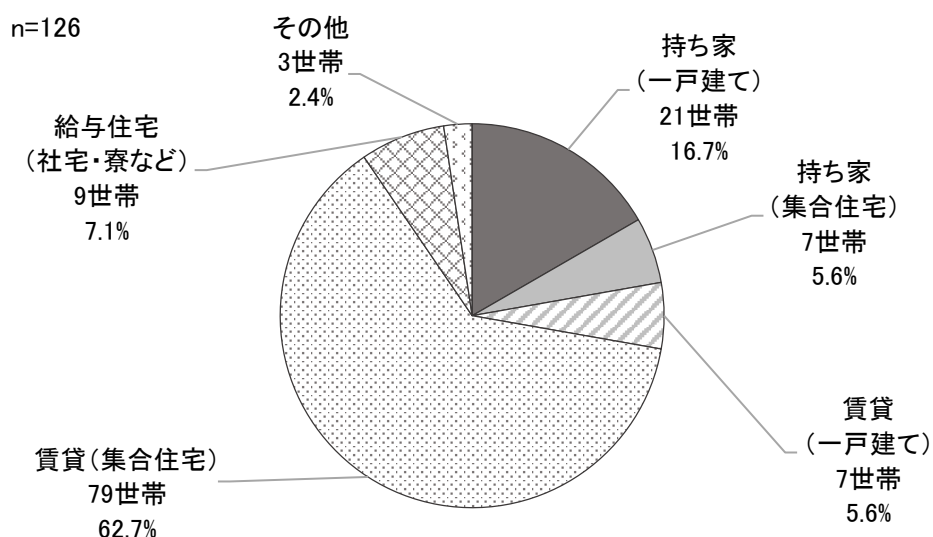
埼玉県内では、本市周辺の「南西部地域」が15.1%で、内訳を見ると「和光市」が36.8%で最も多い。東京都内では、「特別区部」が23.8%と多く、その内訳を見ると「練馬区」が30.0%を占めている。



(5) 転入前のお住まいの形態について（○印は1つ）

【全体の回答傾向】

転入前の住居の形態については、「賃貸（集合住宅）」が62.7%と過半数を占めており、次いで、「持ち家（一戸建て）」が16.7%となっている。

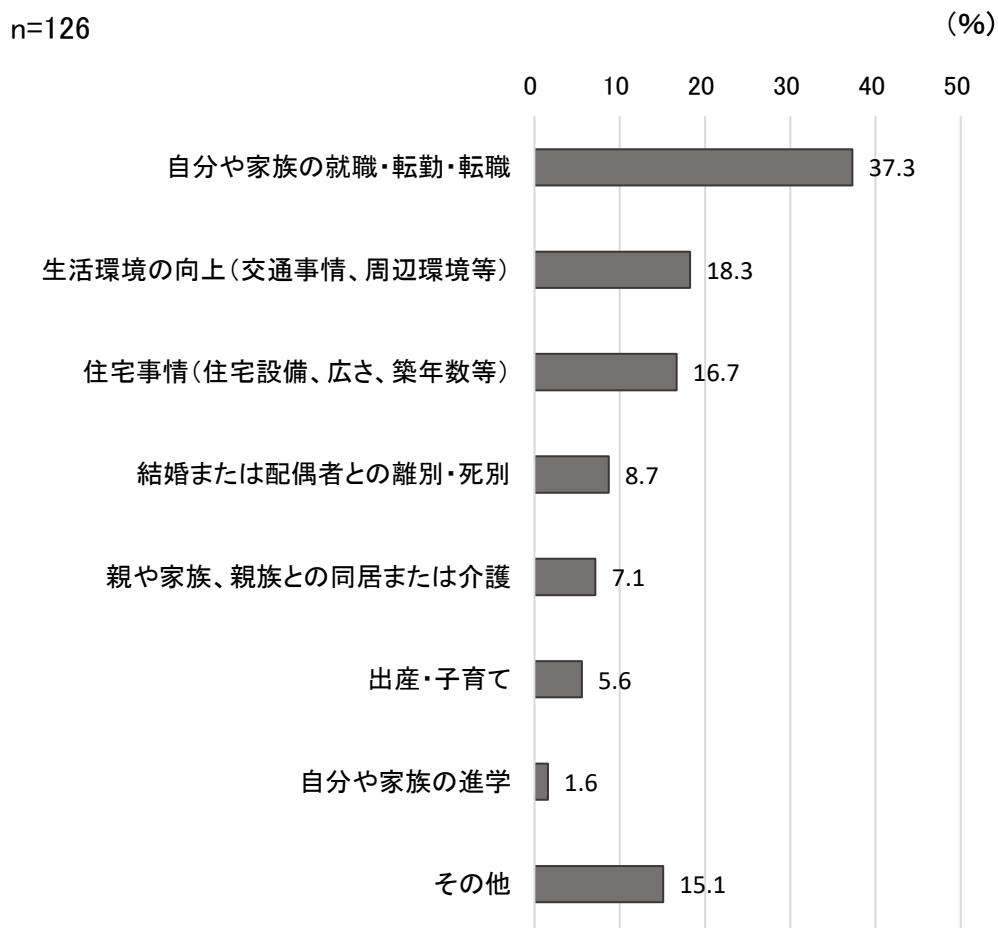


2. 朝霞市への転入の「きっかけ」及び「理由」について

(1) 主な転入のきっかけについて（当てはまるものすべて）

【全体の回答傾向】

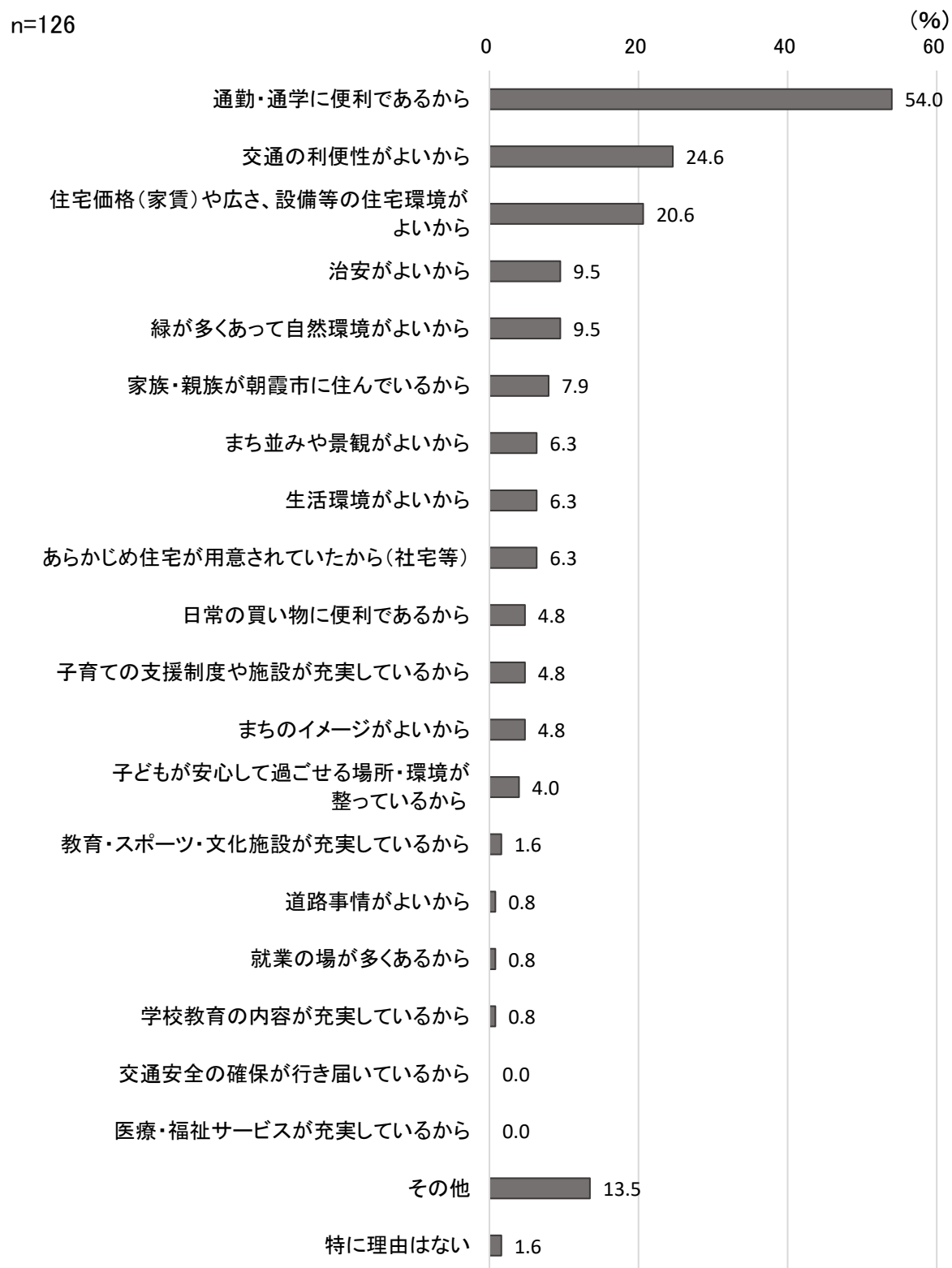
主な転入のきっかけについては、「自分や家族の就職・転勤・転職」が 37.3%で最も多く、「生活環境の向上（交通事情、周辺環境等）」（18.3%）、「住宅事情（住宅設備、広さ、築年数等）」（16.7%）と続いている。



(2) 朝霞市を居住地に決めた理由について（当てはまるものすべて）

【全体の回答傾向】

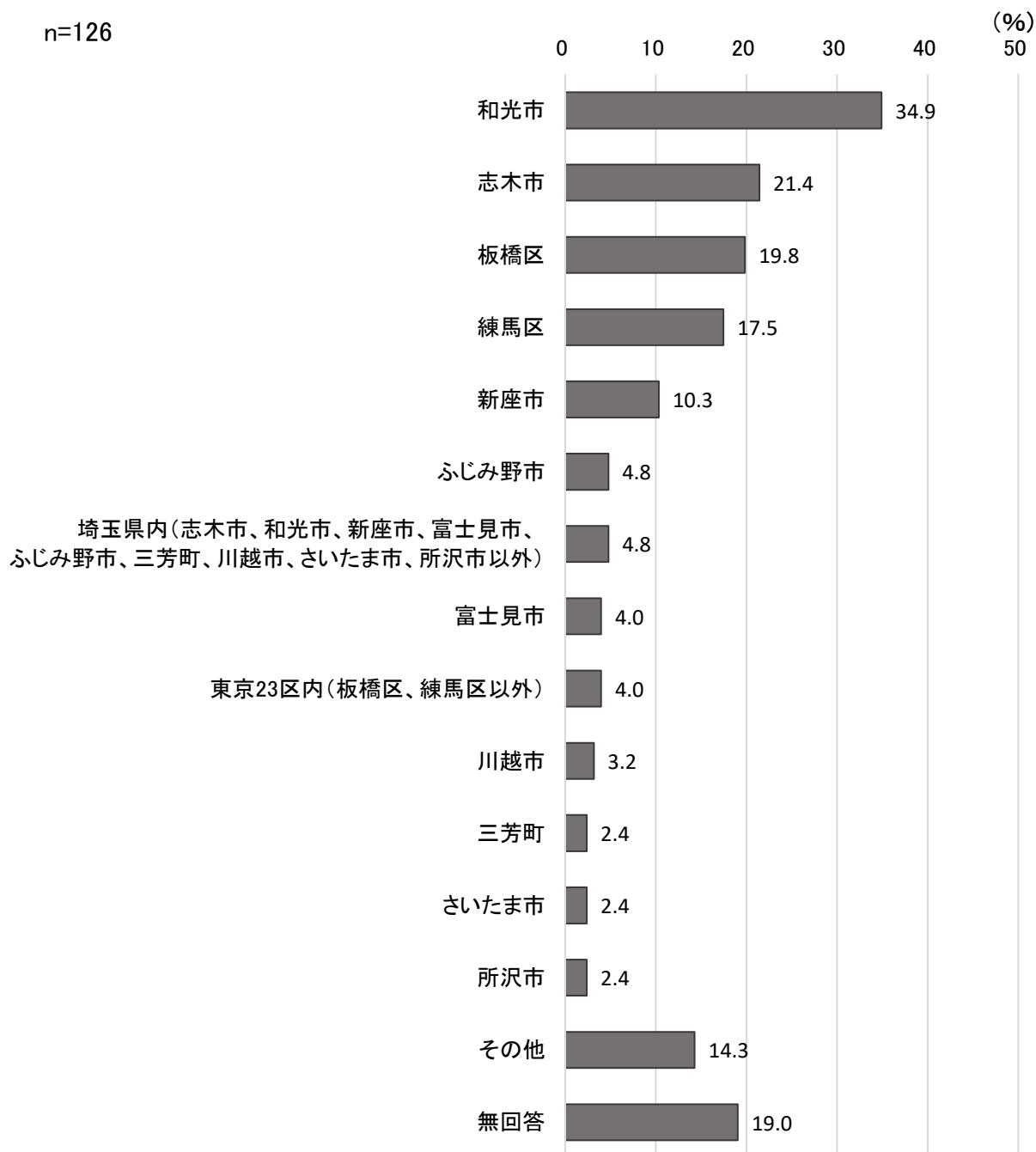
本市を居住地に決めた理由については、「通勤・通学に便利であるから」が 54.0%と最も多く、2番目に多い「交通の利便性がよいから」の 24.6%と合わせて、他地域に行きやすいことが評価されている。



(3) 朝霞市以外で居住を検討した自治体について(当てはまるものすべて)

【全体の回答傾向】

朝霞市以外で居住を検討した地域について見ると、本市周辺の「和光市」が 34.9%で最も多く、「志木市」(21.4%)、「板橋区」(19.8%)、「練馬区」(17.5%)が続いている。



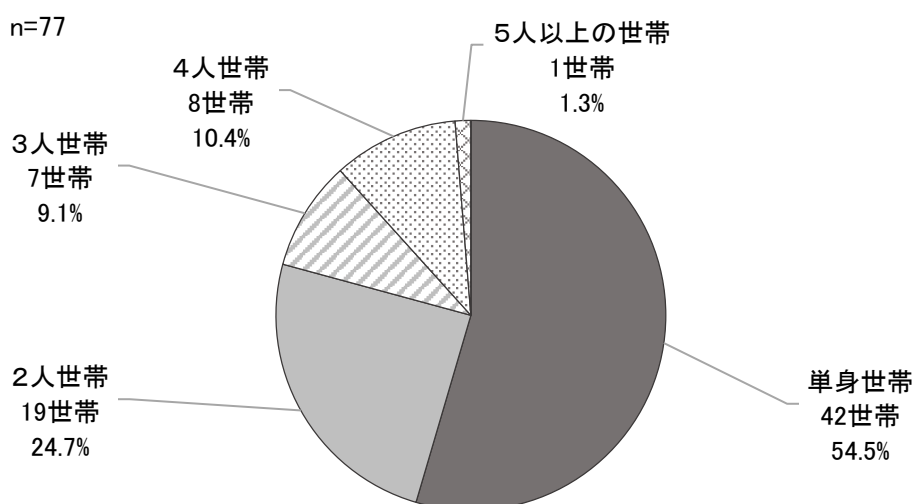
Ⅲ 回答結果（転出者）

1. 世帯構成とお住まいについて

（1）今回転出される方の世帯構成について（○印は1つ）

【全体の回答傾向】

転出者の世帯構成については、「単身世帯」が 54.5%で最も多く、次いで「2人世帯」が 24.7%、「4人世帯」が 10.4%である。

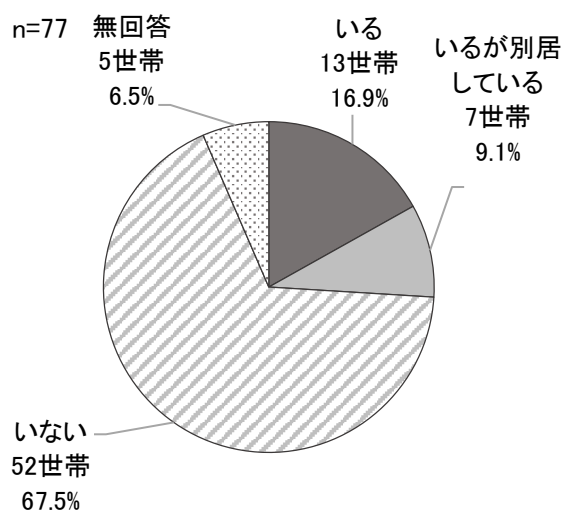


（2）お子様について

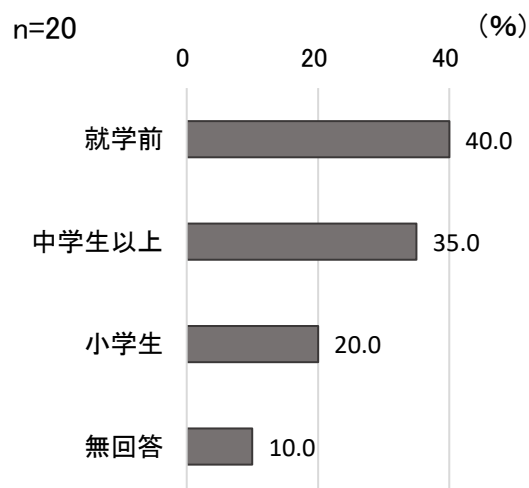
【全体の回答傾向】

子どもがいる世帯は26.0%で、そのうち9.1%は子どもと別居している。また、子どもの年齢層は「就学前」が 40.0%、「中学生以上」が 35.0%、「小学生」が 20.0%であった。

【世帯における子どもの有無（○印は1つ）】



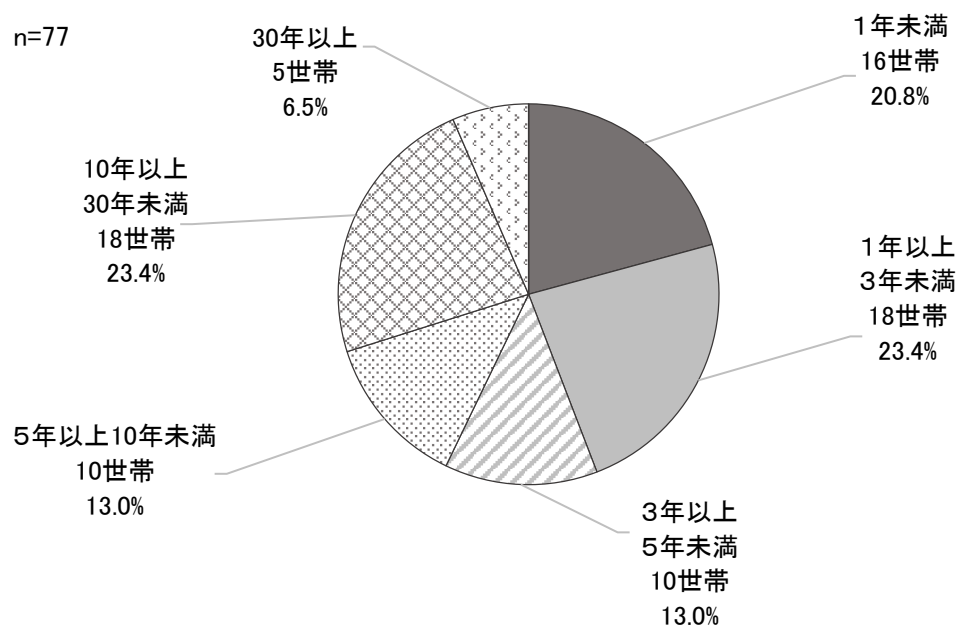
【子どもの年齢層（当てはまるものすべて）】



(3) 朝霞市に居住していた年数について（〇印は1つ）

【全体の回答傾向】

本市に居住した年数については、「1年以上3年未満」と「10年以上30年未満」がそれぞれ 23.4%で最も多く、次いで「1年未満」が 20.8%である。5年未満が 57.2%で、過半数を占めている。

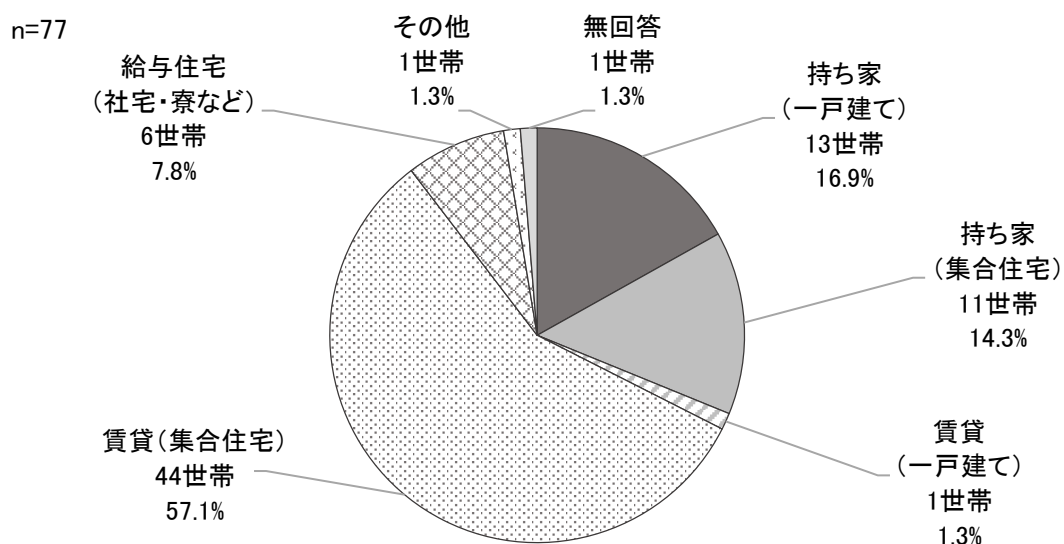


(4) お住まいだった住宅について

① 住宅の形態（○印は1つ）

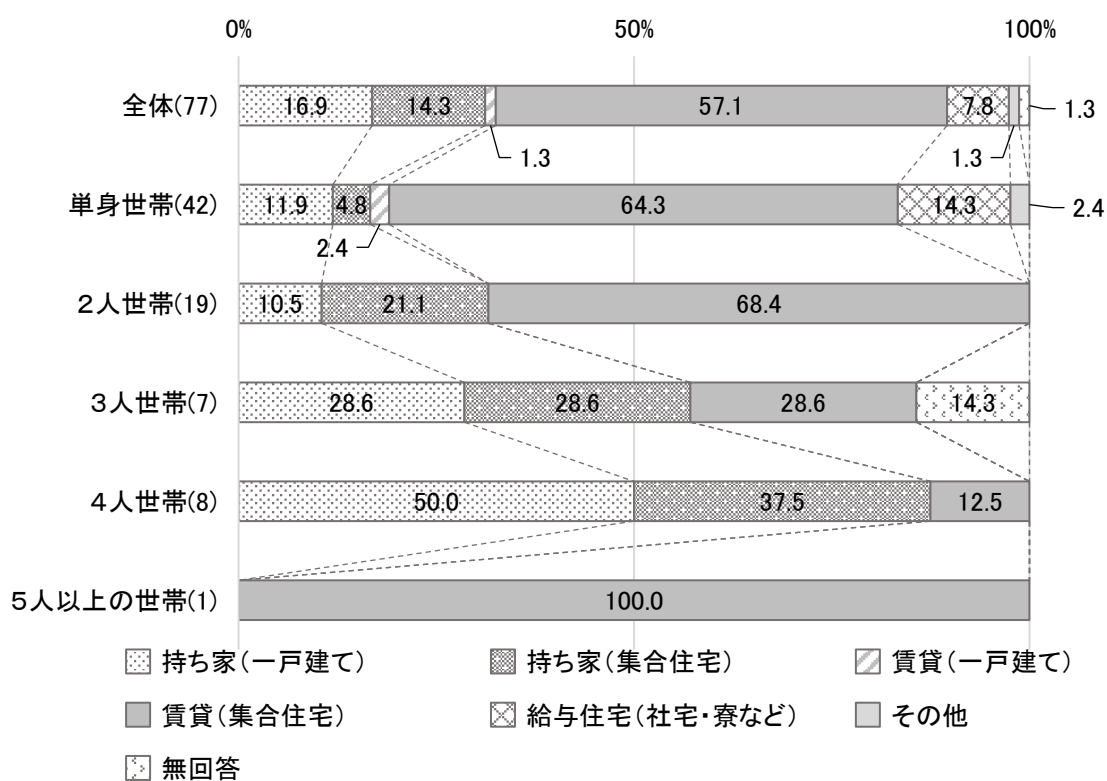
【全体の回答傾向】

住宅の形態は、「賃貸（集合住宅）」が 57.1%で最も多く、次いで「持ち家（一戸建て）」が 16.9%となっている。



【世帯別回答傾向】

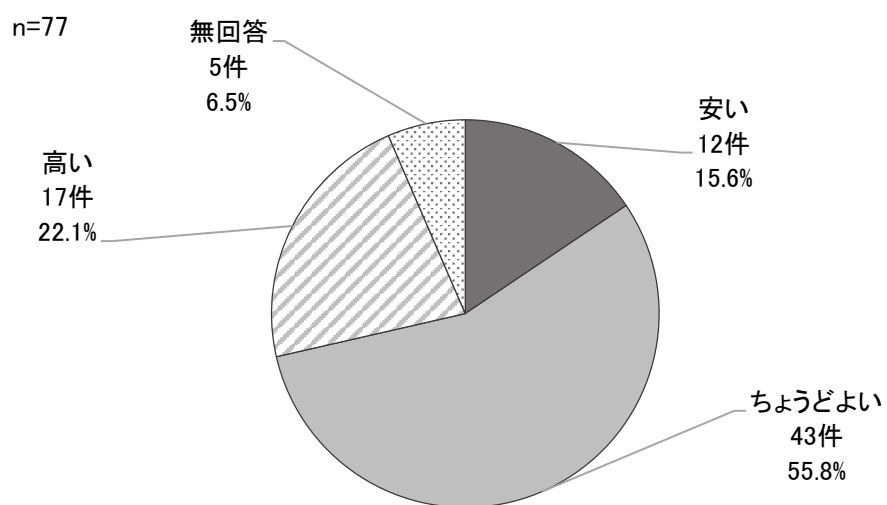
3人世帯と4人世帯では、「持ち家」が過半数を占めている。



② 価格・家賃の印象（○印は1つ）

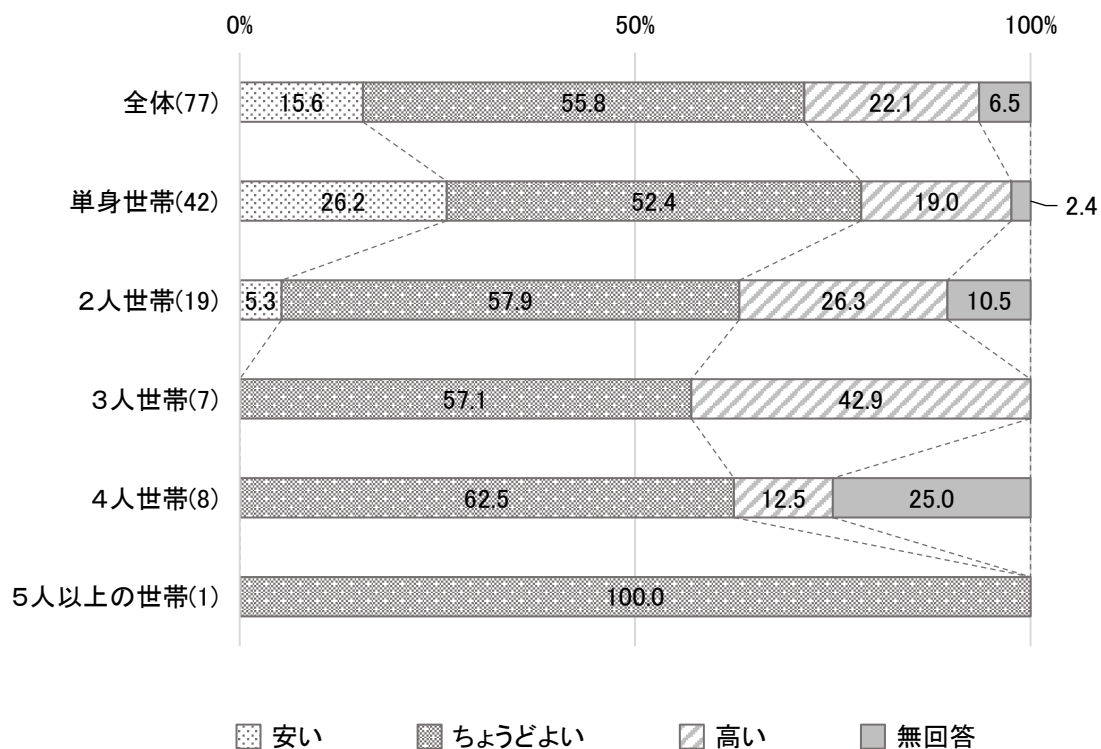
【全体の回答傾向】

住宅の価格又は家賃の印象については、「ちょうどよい」が55.8%と最も多くなっている。



【世帯別回答傾向】

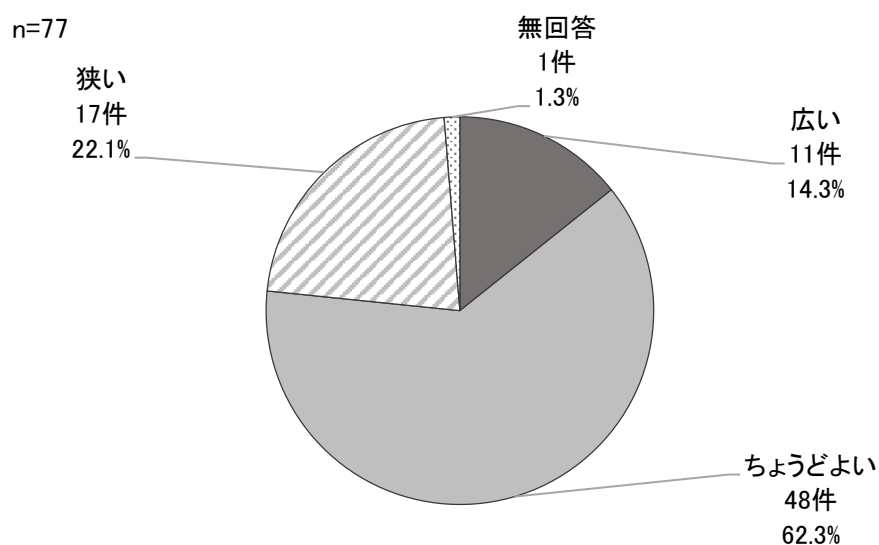
全体的に「ちょうどよい」という評価が高い割合を占めているが、他の世帯と比較して、単身世帯では「安い」という評価、3人世帯では「高い」という評価が多くなっている。



③ 広さの印象（○印は1つ）

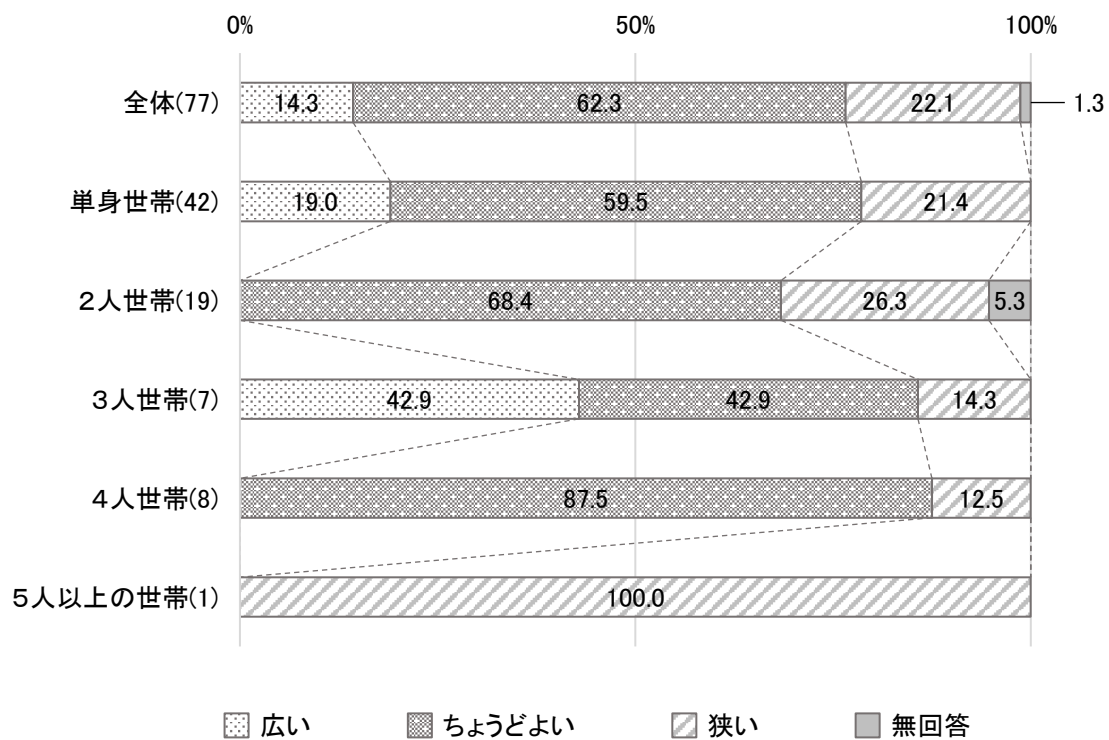
【全体の回答傾向】

住宅の広さの印象については、「ちょうどよい」が62.3%、「狭い」が22.1%となっている。



【世帯別回答傾向】

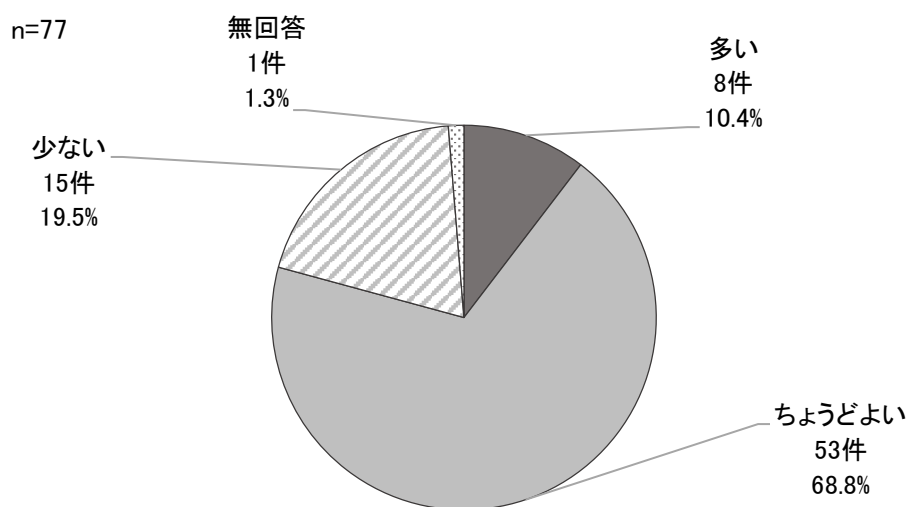
5人以上の世帯を除き、世帯に関わりなく、「ちょうどよい」という評価が高い割合を占めている。



④ 部屋数の印象（○印は1つ）

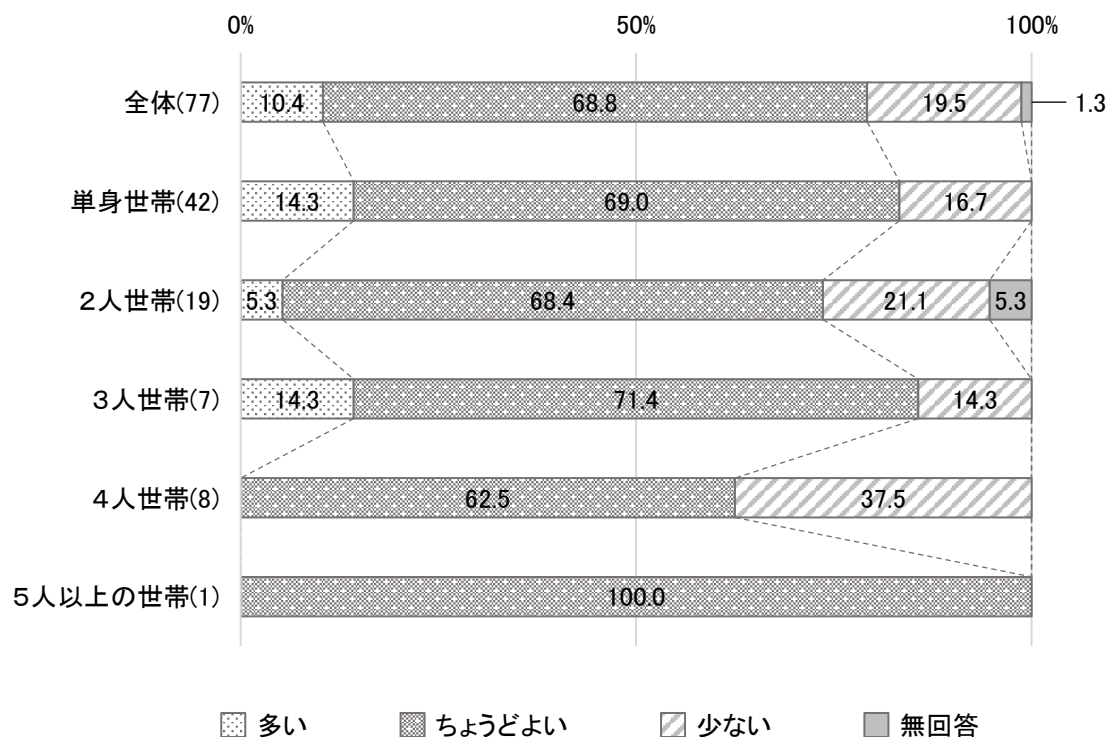
【全体の回答傾向】

住宅の部屋数については、「ちょうどよい」が68.8%、「少ない」が19.5%となっている。



【世帯別回答傾向】

世帯に関わりなく、「ちょうどよい」という評価が高い割合を占めているが、4人以下の世帯では、「多い」より「少ない」という評価の割合が高い傾向もみられる。



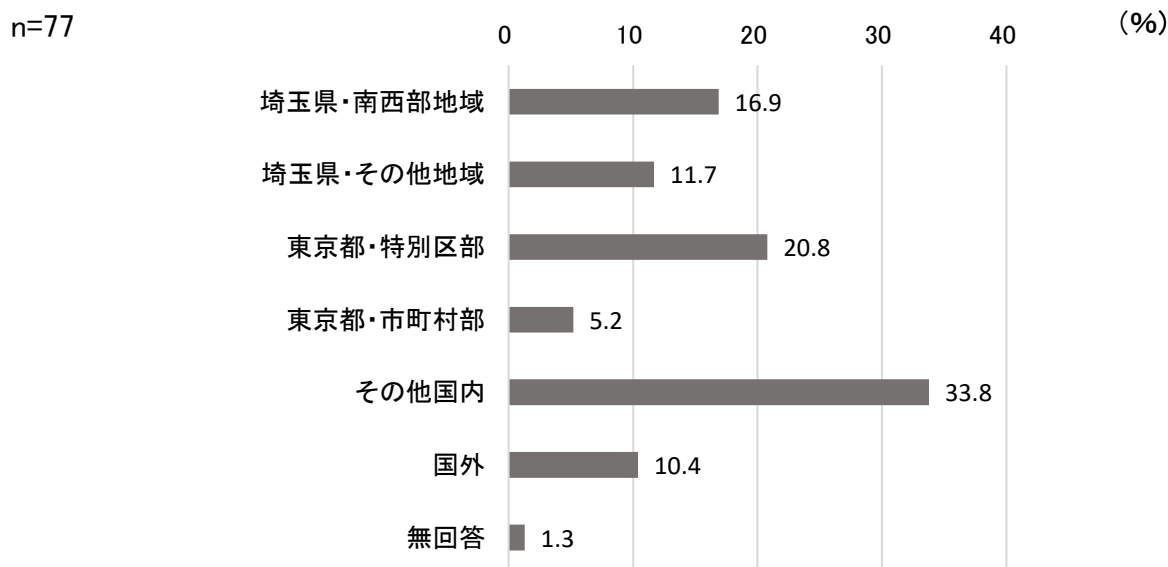
（５）転出先の自治体について（自治体名を記入）

【全体の回答傾向】

転出先の居住地域については、埼玉県内が 28.6%、東京都内が 26.0%となっている。

埼玉県内では、本市周辺の「南西部地域」が 16.9%となっており、内訳を見ると「新座市」が 46.1%、「志木市」が 23.0%、「富士見市」と「ふじみ野市」がそれぞれ 15.3%となっている。

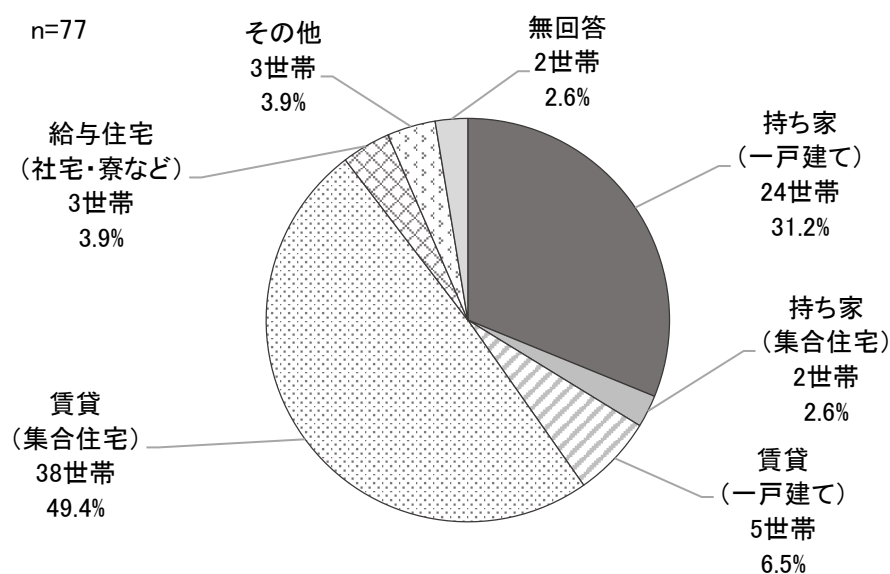
東京都内では、「特別区部」が 20.8%となっており、内訳を見ると「板橋区」が 18.7%、「世田谷区」、「練馬区」、「新宿区」、「豊島区」がそれぞれ 12.5%となっている。



（６）転出先のお住まいの形態について（○印は１つ）

【全体の回答傾向】

転出先の住居の形態については、「賃貸（集合住宅）」が 49.4%、「賃貸（一戸建て）」が 6.5%で、賃貸が過半数を占めている。次いで「持ち家（一戸建て）」が 31.2%となっている。

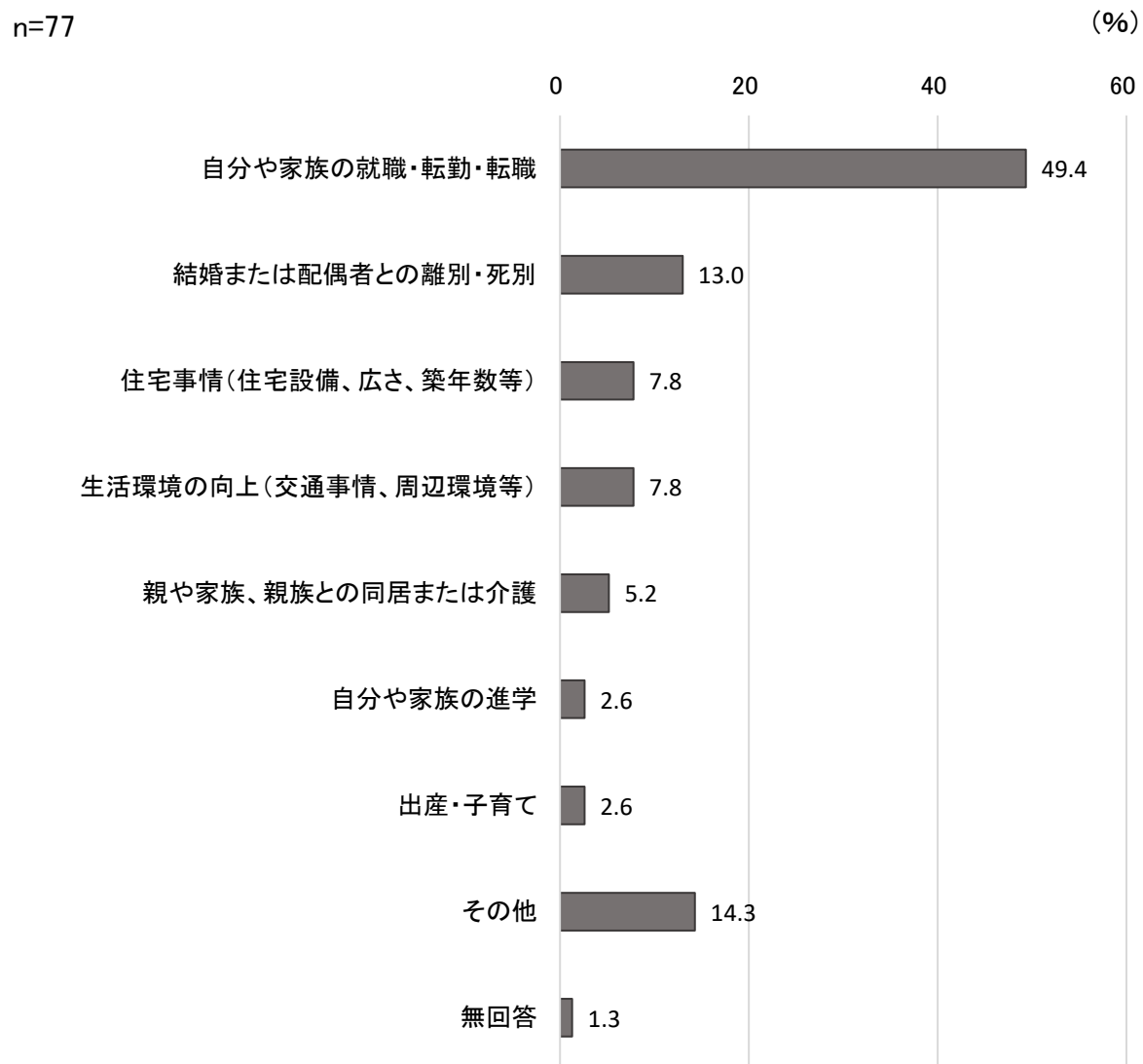


2. 朝霞市から転出する「きっかけ」及び「理由」について

(1) 主な転出のきっかけについて（当てはまるものすべて）

【全体の回答傾向】

主な転出のきっかけについては、「自分や家族の就職・転勤・転職」が 49.4%で最も多く、このほか、「結婚または配偶者との離別・死別」(13.0%)となっている。



(2) 朝霞市から転出する理由について（当てはまるものすべて）

【全体の回答傾向】

本市から転出する理由については、「通勤・通学に不便であるから」が 24.7%で最も多く、このほか「転出先に住宅が用意されているから（社宅等）」（9.1%）となっている。



(3) 将来、朝霞市に戻る可能性の有無について（〇印は1つ）

【全体の回答傾向】

将来、機会があれば朝霞市に戻りたいと思うかについては、「どちらともいえない」が 36.4%で最も多く、次いで「ぜひ、戻りたい」が 26.0%、「どちらかといえば戻りたい」が 20.8%となっている。

